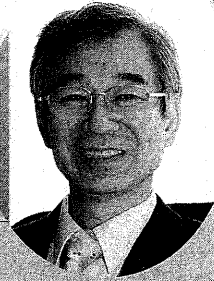


和歌山は若者が育つ

和歌山大学長

山本 健慈



生涯 あなたの人生を 応援します このことを、このたび和歌山大学の入学案内のフレーズとした。しばしば外部から大学の教育に注文を受ける。そのたびに、入学させた以上、学生の「いっさいの人生を支援する」とお答えしている。なぜ「生涯」といい、「いっさい」というのか、以下、大学でみる学生たちの姿、人生を描き、彼らに対する大学としての決意をお伝えしたい。

休退学する学生から見える時代 学長としてここが痛むことは、希望をもって入学しながら退学、休学の手続きの書類を受理することである。ある学生は、父親の給料の未払いが続いている、ある学生は母親が祖父の介護に専念し失職したので自分が収入をえて妹たちの面倒をみなければならないという。授業料免除の申請も年々数を増しており、予定している額をはるかに超える。若年家族の経済的基盤はますます不安定になっており、もう10年もたてば学費負担に耐えられないがゆえに、大学進学者数が急速に低下することも予想されている。

民主党政権は、ようやく高校授業料の無償化の次に大学教育の無償化を政策課題にしようと

しているが、先進諸国の中でその施策は大きく立ち遅れ、大学学費の高さと奨学資金制度の貧困の位置から脱出するのは容易ではない。

経済的支援では解決できない事例、大学生活を持続する精神的エネルギーを失ったとか、他者とうまくコミュニケーションができない、多くの人のなかに身を置くことが苦痛である、講義で理解できないことがあっても質問できないなどの理由での休退学も少なくない。申請書のひとりひとりの理由に目を通しながら、彼らはどのような幼児期を過ごし、小中高の学校生活でどのような生活と学びを積み重ねてきたのか、そして彼らにかかわった親、教師、大人、そして「現代という時代」は、「子育て」「教育」という名において彼・彼女の人生を、どのように支援してきたのか、してこなかったのかと思うと、深いため息が出る。

18歳までの人生を受けとめる 大学への入学資格は、入学試験成績で判定される。その判定には人間としての成長の到達は反映しない。しかし大学に入ると親や教員が管理しない時間、空間のなかで生活をしていかなければならない。4月の入学式では新入生に以下のように話

した。

「明日からどこへ行き、なにからはじめたらいいのかと戸惑っている人もあるでしょう。親しく話し合えるともだちはあるのか不安に思っている人もいるでしょう。希望とともに大きな戸惑いがあるって当然です。(中略) 戸惑い、不安、心配なことは、先輩、職員、教員にぜひ声をかけ相談してください。」

「人間としての成長の到達」と硬い言い方をしたが、簡単にいえば、わからないことは他者に尋ね、困ったことは他者に助けを求めること、大学生のなかにはこのような生きる上でもっとも肝心なことを身につけていないとか、失ってしまっているものもいるのである。

地域の教育力への期待 こうした認識のもとに和歌山大学は、「子ども期から青年期に至る学習体験、生活体験等人間形成上の諸課題を踏まえた、初年次からの優れた教養教育を実現し、時代と社会への深い知性・認識と他者とともに問題解決に取り組む人間関係力を培うことを重視」すると宣言している。この目的は、机上の学習・研究だけでは達成されない。自主的主体的に住民の福祉と地域発展の活動が存在する和歌山というフィールドこそ、この目的を実現し、学生たちが育つにふさわしい。学生たちは、地域発展のために懸命に取り組まれている住民、企業家等のみなさんの姿に接し、生き方のモデルと出会い、自己の志を熟成させていく。過疎の地域でホームステイをさせていただきながらの教育実習では、「こうした地域の人、子どもの役に立つ教師になりたい」と気持ちを高め、教員となり、その後も地域の方々との交流を続けている姿がある。

生涯の人生を支援する 大学を卒業し就職しても3年間で約30パーセントが離職するといわれている。「いまの若者はひ弱だ」と批評するだけでは先行世代の役割を果たしたとはいえない。大学の責務は、ここにもある。3月の卒業式では、次のようなことばを送った。

「人間はしばしば、深刻な苦悩に陥ると、自らを孤立に追い込むことがあります。(中略) 困難に直面し

不安を抱えていてもそれを表現しなければ誰も気づきません。苦悩を表現すれば苦悩を共有し、共感してくれる人はいるのです。あなたの苦悩は、決して孤立したものではありません。そもそも完全なる人間はいないのです。Nobody is Perfect. 一人ひとり是不完全であり、補い合うこと、支えあうことなしには自立できないのです。」

「みなさんが卒業後、苦悩や挫折に直面し、他者への依存の必要を感じたとき、母校である和歌山大学も依存の対象としてぜひ思い起こしてください。和歌山大学は、大学の使命として在学生の支援はもちろんのことですが、本日ご臨席の同窓会の先輩方とも協力し卒業生の生涯にわたる支援の仕組みを強めていくつもりです。」

オールWAKAYAMAの力で若者を 幸い和歌山大学には歴史のある教育学部、経済学部があり、学識と経験豊かな卒業生が存在する。さきのホームステイ教育実習ではリタイアされた教育学部卒業生に御世話になっており、経済界で活躍された経済学部卒業生は、大阪等都市圏で勤務する学部をこえた若手卒業生のネットワークづくりなどにご尽力いただいている。

さきの入学式では「元気なシニアの方々を含む同窓会、そして和歌山という地域、すなわちオール和歌山大学、オール和歌山が(みなさんの育ちを)支えています」と最後に述べたが、地域のみなさんには地域づくりに立ち向かう取り組みの中で和歌山大学に学ぶ若者を育てていただきたいと切にお願いしたい。